北大塚古墳

きたおおつかこふん

文化財愛護シンボルマーク

名　称	北大塚古墳	所 在 地	加古川市神野町日岡苑 31
数　量	１基	管 理 者	西之山町内会
形　態	前方後円墳（現在は後円部のみ）	指　　定	加古川市指定文化財
規　模	直径約 52.5m、高さ約 6.9m	指定分類	史跡
時　代	古墳時代前期末から中期初頭 ４世紀末から５世紀初頭	指定名称	北大塚古墳
		指定年月日	昭和 43（1968）年４月１日

北大塚古墳

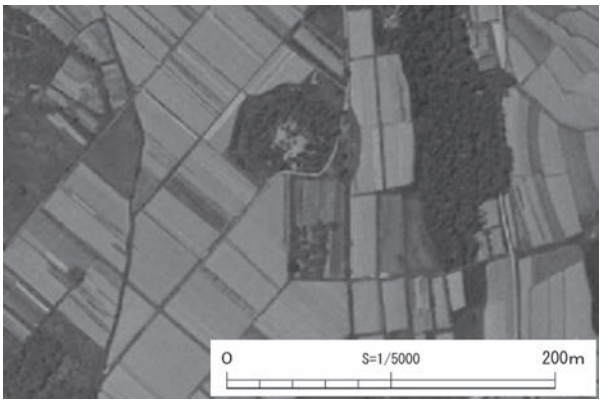
北大塚古墳は、日岡山古墳群を構成する主要古墳のひとつで、古墳群のなかでは最後に築造された前方後円墳と考えられています。しかし、その前方部は過去の宅地造成の際に大きく削平され、現在では後円部と周濠の一部が残っているに過ぎません。

現況での後円部は、直径約52.5m、高さ約6.9mを測り、二段築成である可能性が指摘されています。墳丘斜面には葺石と考えられる河原石などが確認され、円筒埴輪や器財埴輪の破片が採集されています。

周濠は、後円部の西側から北東側にかけて残っていますが、その幅は7～20mと場所によって大きく異なるため、かつての宅地造成の際にかなり改変を受けたものとみられます。

前方部については、現在、完全に削平されていますが、以前はその一部が残っていたといわれています。また、かつての航空写真や地籍図における地割りをみると、後円部の南側に長方形の区画がみられます。この地割りが前方部の痕跡であったとすると、周濠を含めた古墳の全長はおおよそ 140mにも達すると推定されています。

明治年間に後円部の埋葬施設が発掘され、大型の



昭和36～44年頃の北大塚古墳周辺の航空写真
（国土地理院ホームページから）

北大塚古墳墳丘測量図
（高野1996をもとに作成）

箱式石棺から大量の鉄製武器類が出土したと伝えられています。また、後円部の墳頂では短甲片とみられる鉄片が採集されています。しかし、明治年間の発掘については、当時の記録や資料が残っていないため詳細はわかりません。

北大塚古墳は、日岡山古墳群のなかで最後に築造されたと考えられる前方後円墳です。その後、加古川下流域における大型の前方後円墳の築造は、日岡山古墳群の東側約1.2kmに位置する西条古墳群に移ります。この古墳は、古墳時代前期から中期にかけての当地域の政治的動向などを考えるうえで重要な古墳といえます。

（文、写真／平尾）

●参考文献
「北大塚古墳」高野政昭（『加古川市史』第四巻史料編Ⅰ、加古川市、1996年）
『加古川市西条古墳群尼塚古墳』森下章司・西村秀子編　尼塚古墳発掘調査団・加古川市教育委員会（2012年）

●キーワード
北大塚古墳、日岡山古墳群、古墳、前方後円墳、段築、葺石、埴輪、円筒埴輪、器財埴輪、周濠、箱式石棺、鉄製武器、短甲、西条古墳群

●所在地／加古川市神野町日岡苑31

●交　通／JR加古川線「日岡」駅から東へ徒歩20分

編集・発行：加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
平成31年3月29日(2019.03.29／1000)